

多発性嚢胞腎について

常染色体優性多発性のう胞腎（以下のう胞腎）は、両側の腎臓にのう胞と呼ばれる水のたまった袋がたくさんできて腎臓が大きくなる遺伝性の疾患です。多くが 30～40 歳代まで無症状で経過しますが、病気の進行により高血圧、血尿、腹部の痛みなどが現れ、40 歳頃から腎機能が低下しはじめ、60 歳までに約半数の患者さんで透析や腎移植が必要となります。5～10%の患者さんでは脳動脈瘤の合併もみられ、脳出血にも注意が必要な病気です。患者数は約 3 万人と推定されています。

のう胞腎に対していままで有効な治療薬はありませんでしたが、バソプレッシン V2 受容体拮抗薬であるトルバプタンという薬に、のう胞の増大や腎機能の低下を抑える効果があることがわかり、日本でも 2014 年 3 月末に治療薬として認可されました。しかし、このお薬はどこの病院でも処方できるお薬ではなく、処方する資格を持った医師のみが処方できます。また、適応を判断するために腎機能や腎容積の測定などの検査が必要になります。そのため、内服を希望する患者さんには専門医の受診をお勧めします。

当院では月曜、土曜日の専門外来でトルバプタンによる治療を行っております。電話にて外来予約を承りますので、お気軽にご連絡ください。

〔腎臓総合内科外来〕

月曜・土曜日 9 時～12 時 担当医：小野崎彰

外来予約電話番号 0120-113-751

上記以外で来院を希望される場合はお電話にてご相談ください。

腎臓内科部長・小野崎彰（総合内科専門医・腎臓専門医）